



LLDP の設定

- [グローバル LLDP コマンドの設定 \(1 ページ\)](#)
- [LLDP の設定, on page 2](#)
- [LLDP 管理 TLV IP アドレスについて \(4 ページ\)](#)
- [インターフェイスでの LLDP 管理 TLV IP アドレスの設定 \(6 ページ\)](#)
- [インターフェイス LLDP の設定, on page 7](#)
- [LLDP マルチネイバー サポート \(9 ページ\)](#)
- [ポート チャネルインターフェイスでの LLDP サポートの有効化または無効化 \(12 ページ\)](#)
- [LLDP の MIB \(14 ページ\)](#)

グローバル LLDP コマンドの設定

グローバルな LLDP 設定値を設定できます。これらの設定値には、ピアから受信した LLDP 情報を廃棄するまでの時間、任意のインターフェイスで LLDP 初期化を実行するまで待機する時間、LLDP パケットを送信するレート、ポート記述、システム機能、システム記述、およびシステム名が含まれます。

LLDP は一連の属性をサポートし、これらを使用してネイバーデバイスを検出します。属性には、Type、Length、および Value の説明が含まれていて、これらを TLV と呼びます。LLDP をサポートするデバイスは、ネイバーとの情報の送受信に TLV を使用できます。設定情報、デバイスの機能、デバイス ID などの詳細情報は、このプロトコルを使用してアドバタイズできます。

スイッチは、次の必要な管理 LLDP TLV をサポートします。

- Data Center Ethernet Parameter Exchange (DCBXP) TLV
- 管理アドレス TLV
- ポート記述 TLV
- ポート VLAN ID TLV (IEEE 802.1 に固有の TLV)
- システム機能 TLV

- システム記述 TLV
- システム名 TLV

Data Center Bridging Exchange Protocol (DCBXP) は、LLDP を拡張したプロトコルです。このプロトコルは、ピア間のノードパラメータのアナウンス、交換、およびネゴシエートに使用されます。DCBXP パラメータは、特定の DCBXP TLV にパッケージ化されます。この TLV は、受信した LLDP パケットに応答するように設計されています。

LLDP をイネーブルにすると、DCBXP がデフォルトでイネーブルになります。LLDP が有効な場合、DCBXP は `[no] lldp tlv-select dcbxp` コマンドを使用して有効または無効にできます。LLDP の送信または受信がディセーブルになっているポートでは、DCBXP はディセーブルです。

LLDP の設定

Before you begin

スイッチでリンク層検出プロトコル (LLDP) 機能がイネーブルになっていることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **lldp** {*holdtime seconds* | **reinit seconds** | **timer seconds** | **tlv-select** {**dcbxp** | **management-address** [**v4** | **v6**] | **port-description** | **port-vlan** | **system-capabilities** | **system-description** | **system-name**}}
3. switch(config)# **no lldp** {*holdtime* | **reinit** | **timer**}
4. (任意) switch# **show lldp**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# lldp { <i>holdtime seconds</i> reinit seconds timer seconds tlv-select { dcbxp management-address [v4 v6] port-description port-vlan system-capabilities system-description system-name }}	LLDP オプションを設定します。 holdtime オプションを使用して、デバイスが受信した LLDP 情報を廃棄するまでの保存時間を設定します (10 ~ 255 秒)。デフォルト値は 120 秒です。 reinit オプションを使用して、任意のインターフェイスで LLDP 初期化を実行するまでの待機時間を設定します (1 ~ 10 秒)。デフォルト値は 2 秒です。

	Command or Action	Purpose
		<p>timer オプションを使用して、LLDP パケットを送信するレートを設定します (5 ~ 254 秒)。デフォルト値は 30 秒です。</p> <p>tlv-select オプションを使用して、Type Length Value (TLV) を指定します。デフォルトでは、すべての TLV の送受信がイネーブルです。</p> <p>dcbxp オプションを使用して、Data Center Ethernet Parameter Exchange (DCBXP) TLV メッセージを指定します。</p> <p>management-address オプションを使用して、管理アドレス TLV メッセージを指定します。</p> <p>management-address v4 オプションを使用して、IPv4 管理アドレス TLV メッセージを指定します。</p> <p>management-address v6 オプションを使用して、IPv6 管理アドレス TLV メッセージを指定します。</p> <p>port-description オプションを使用して、ポート記述 TLV メッセージを指定します。</p> <p>port-vlan オプションを使用して、ポート VLAN ID TLV メッセージを指定します。</p> <p>system-capabilities オプションを使用して、システム機能 TLV メッセージを指定します。</p> <p>system-description オプションを使用して、システム記述 TLV メッセージを指定します。</p> <p>system-name オプションを使用して、システム名 TLV メッセージを指定します。</p>
ステップ 3	switch(config)# no lldp {holdtime reinit timer}	LLDP 値をデフォルトにリセットします。
ステップ 4	(任意) switch# show lldp	LLDP の設定を表示します。

Example

次に、グローバルな LLDP ホールドタイムを 200 秒に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# lldp holdtime 200
switch(config)#
```

次に、LLDP をイネーブルにして管理アドレス TLV を送受信する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# lldp tlv-select management-address
switch(config)#
```

次に、LLDP をイネーブルにして IPv4 管理アドレス TLV を送受信する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# lldp tlv-select management-address v4
switch(config)#
```

次に、LLDP をイネーブルにして IPv6 管理アドレス TLV を送受信する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# lldp tlv-select management-address v6
switch(config)#
```

LLDP 管理 TLV IP アドレスについて

LLDP 管理 TLV を使用して、ネットワーク デバイスのシステム情報をネイバーに伝達することができます。LLDP 管理 TLV には、リモート マネージャがローカル デバイスに関する情報を取得するために使用できる管理アドレスが含まれています。現在は、デフォルトで、管理ポート `mgmt0` の IPv4 および IPv6 アドレスが管理 TLV で送信されます。

Cisco NX-OS Release 7.0(3)F3(1) で、IPv4 と IPv6 の 2 つの TLV のサポートが導入されました。

LLDP 管理 TLV で送信する管理 IPv4 または IPv6 アドレスは明示的に指定できます。この IP アドレスは次のいずれかにすることができます。

- ポートの IPv4 または IPv6 アドレス
- VLAN (SVI) の IPv4 または IPv6 アドレス

IPv4 の場合、LLDP 管理 TLV で送信する管理アドレスを選択するときに次のルールが適用されます。

- LLDP 管理 v4 TLV が送信用に設定され、ポートの LLDP 管理 IPv4 アドレスが設定されている場合は、そのポート上で設定された LLDP 管理 IPv4 アドレスが、送信する LLDP プロトコル データ ユニット (PDU) の管理 TLV で使用されます。
- LLDP 管理 v4 TLV が送信用に設定され、LLDP VLAN が設定されている場合:
 - VLAN ID が指定され、その SVI が操作可能な場合は、VLAN ID の SVI IPv4 アドレスが、送信する LLDP PDU の管理 v4 TLV で使用されます。
 - ネイティブ VLAN が利用可能で、その SVI が操作可能な場合は、ネイティブ VLAN の SVI IPv4 アドレスが、送信する LLDP PDU の管理 v4 TLV で使用されます。
- LLDP 管理 v4 TLV が送信用に設定され、LLDP 管理 IPv4 アドレスと LLDP VLAN の両方が設定されていない場合は、管理ポート `mgmt0` の IPv4 アドレスが、送信する LLDP PDU の管理 v4 TLV で使用されます。

- LLDP 管理 v4 TLV に IPv4 アドレスが設定されていない場合、インターフェイス ポートの MAC アドレスは 1 つの TLV で送信されます。
- LLDP 管理 v4 TLV が送信用に設定されていない場合は、管理 TLV IPv4 アドレスは送信されません。

IPv6 の場合、LLDP 管理 TLV で送信する管理アドレスを選択するときに次のルールが適用されます。

- LLDP 管理 v6 TLV が送信用に設定され、ポートの LLDP 管理 IPv6 アドレスが設定されている場合は、そのポート上で設定された LLDP 管理 IPv6 が、送信する LLDP プロトコル データ ユニット (PDU) の管理 TLV で使用されます。
- LLDP 管理 v6 TLV が送信用に設定され、LLDP VLAN が設定されている場合:
 - VLAN ID が指定され、その SVI が操作可能な場合は、VLAN ID の SVI IPv6 アドレスが、送信する LLDP PDU の管理 v6 TLV で使用されます。
 - ネイティブ VLAN が利用可能で、その SVI が操作可能な場合は、ネイティブ VLAN の SVI IPv6 アドレスが、送信する LLDP PDU の管理 v6 TLV で使用されます。
- LLDP 管理 v6 TLV が送信用に設定され、LLDP 管理 IPv6 アドレスと LLDP VLAN の両方が設定されていない場合は、管理ポート mgmt0 の IPv6 アドレスが、送信する LLDP PDU の管理 v6 TLV で使用されます。
- LLDP 管理 v6 TLV に IPv6 アドレスが設定されていない場合、インターフェイス ポートの MAC アドレスは 1 つの TLV で送信されます。
- LLDP 管理 v6 TLV が送信用に設定されていない場合は、管理 TLV IPv6 アドレスは送信されません。

次に、設定された IPv4 または IPv6 アドレスに基づいて実行される TLV 選択プロセスを示します。

- IP アドレス未設定：インターフェイス ポートの MAC アドレスは 1 つの TLV で送信されます。
- IPv4 アドレスのみ設定：2 つの TLV が送信されます。1 つは IPv4 アドレスで、もう 1 つはインターフェイスポートの MAC アドレスです。このプロセスは、IPv4 の LLDP 管理 TLV で送信する管理アドレスを選択するときに適用される次のルールに従います。
- IPv6 アドレスのみ設定：IPv6 アドレスは 1 つの TLV で送信されます。このプロセスは、IPv6 の LLDP 管理 TLV で送信する管理アドレスを選択するときに適用される次のルールに従います。
- IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが設定されている：2 つの TLV が送信されます。1 つは IPv4 アドレス、もう 1 つは IPv6 アドレスを持ちます。このプロセスは、IPv4 および IPv6 の LLDP 管理 TLV で送信する管理アドレスを選択するときに適用される次のルールに従います。



注 両方の TLV が設定され、IPv4 アドレスが設定されていない場合、v4 TLV ではインターフェイスポートの MAC アドレスは送信されません。1 つの TLV のみが送信されます。

インターフェイスポートの MAC アドレスを持つ TLV が 1 つだけ送信される場合、このアドレスはピアの IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方の列に表示されます。

インターフェイスでの LLDP 管理 TLV IP アドレスの設定

始める前に

LLDP 管理 TLV オプションが設定されていることを確認します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **interface ethernet slot/port**
3. switch(config-if)# **[no] lldp tlv-set { management-address ip-address [ipv6] | vlan [vlan-id] }**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# interface ethernet slot/port	設定するインターフェイスを指定します。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# [no] lldp tlv-set { management-address ip-address [ipv6] vlan [vlan-id] }	管理 IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または VLAN ID を指定します。 lldp tlv-set vlan コマンドは、レイヤ 2 ポートでのみ実行する必要があります。レイヤ 3 ポートでこのコマンドを実行すると、その設定は LLDP 管理 TLV の管理 IPv4 または IPv6 アドレスの特定中に無視されます。ただし、設定は削除されません。ポートレイヤモードが再度レイヤ 2 に変更されると、その設定は再度考慮されるようになります。

例

次に、管理 TLV で管理 IPv4 アドレスを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/8
switch(config-if)# lldp tlv-set management-address 1.1.1.20
```

次に、管理 TLV で管理 IPv6 アドレスを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/8
switch(config-if)# lldp tlv-set management-address 0dc3:0dc3:0000:0000:0218:baff:fed8:239d
ipv6
```

次に、管理 TLV で VLAN ID を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/8
switch(config-if)# lldp tlv-set vlan 10
```

インターフェイス LLDP の設定

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **interface** *type slot/port*
3. switch(config-if)# [**no**] **lldp** {**receive** | **transmit**}
4. (Optional) switch# **show lldp** {**interface** | **neighbors** [**detail** | **interface** | **system-detail**] | **timers** | **traffic**}

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# interface <i>type slot/port</i>	変更するインターフェイスを選択します。
ステップ 3	switch(config-if)# [no] lldp { receive transmit }	選択したインターフェイスを受信または送信に設定します。 このコマンドの no 形式を使用すると、LLDP の送信または受信をディセーブルにします。
ステップ 4	(Optional) switch# show lldp { interface neighbors [detail interface system-detail] timers traffic }	LLDP の設定を表示します。

Example

次に、LLDP パケットを送信するようインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# lldp transmit
```

次に、LLDP をディセーブルにするようインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no lldp transmit
switch(config-if)# no lldp receive
```

次に、LLDP インターフェイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp interface ethernet 1/2
tx_enabled: TRUE
rx_enabled: TRUE
dcbx_enabled: TRUE
Port MAC address:    00:0d:ec:a3:5f:48
Remote Peers Information
No remote peers exist
```

次に、LLDP ネイバーの情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp neighbors
Capability codes:
  (R) Router, (B) Bridge, (T) Telephone, (C) DOCSIS Cable Device
  (W) WLAN Access Point, (P) Repeater, (S) Station, (O) Other
Device ID          Local Intf      Hold-time  Capability  Port ID
BLR-VPC2-QS8      Eth1/25         120        BR           Ethernet1/25
BLR-VPC2-QS8      Eth1/26         120        BR           Ethernet1/26
BLR-VPC2-QS8      Eth1/27         120        BR           Ethernet1/27
BLR-VPC2-QS8      Eth1/28         120        BR           Ethernet1/28
Total entries displayed: 4
switch#
```

次に、LLDP ネイバーに関するインターフェイスの詳細を表示する例を示します。

```
switch(config-if)# show lldp neighbor interface ethernet 1/4 detail
Capability codes:
  (R) Router, (B) Bridge, (T) Telephone, (C) DOCSIS Cable Device
  (W) WLAN Access Point, (P) Repeater, (S) Station, (O) Other
Device ID          Local Intf      Hold-time  Capability  Port ID

Chassis id: 0022.bddf.548b
Port id: Ethernet1/4
Local Port id: Eth1/4
Port Description: Ethernet1/4
System Name: abc.mycompany.com
System Description: Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software 7.0(3)F3(1)
TAC support: http://www.cisco.com/tac
```



```
Copyright (c) 2002-2014, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
Time remaining: 108 seconds
System Capabilities: B, R
Enabled Capabilities: B, R
Management Address: 10.105.215.235
Management Address IPV6: 0022.bddf.548b
Vlan ID: 1
```

```
Total entries displayed: 1
switch(config-if)#
```

次に、LLDP ネイバーに関するシステムの詳細を表示する例を示します。

```
switch# sh lldp neighbors system-detail
Capability codes:
  (R) Router, (B) Bridge, (T) Telephone, (C) DOCSIS Cable Device
  (W) WLAN Access Point, (P) Repeater, (S) Station, (O) Other
Device ID Local Intf Chassis ID PortID Hold-time Capability

switch-2 Eth1/7 0005.73b7.37ce Eth1/7 120 B
switch-3 Eth/9 0005.73b7.37d0 Eth1/9 120 B
switch-4 Eth1/10 0005.73b7.37d1 Eth1/10 120 B
Total entries displayed: 3
```

次に、LLDP タイマー情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp timers
LLDP Timers
holdtime 120 seconds
reinit 2 seconds
msg_tx_interval 30 seconds
```

次に、LLDP カウンタに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show lldp traffic
LLDP traffic statistics:

Total frames out: 8464
Total Entries aged: 6
Total frames in: 6342
Total frames received in error: 2
Total frames discarded: 2
Total TLVs unrecognized: 0
```

LLDP マルチネイバー サポート

多くの場合、ネットワークデバイスは複数の LLDP パケットを送信しますが、そのうちの1つは実際のホストからのものです。Cisco Nexus スイッチがデバイスと通信しているが、インターフェイスごとに1つの LLDP ネイバーしか管理できない場合は、実際に必要なホストとのネイバーになることが失敗する可能性があります。これを最小限に抑えるために、Cisco Nexus ス

イッチ インターフェイスは複数の LLDP ネイバーをサポートできるため、正しいデバイスで LLDP ネイバーになる可能性が高くなります。

同じインターフェイスで複数の LLDP ネイバーをサポートするには、LLDP マルチネイバー サポートをグローバルに設定する必要があります。



(注) LLDP マルチネイバー サポートを設定する前に、DCBX をグローバルに無効にする必要があります。これを行わないと、エラー メッセージが表示されます。

インターフェイスでの LLDP マルチネイバー サポートのイネーブル化またはディセーブル化

始める前に

インターフェイスで LLDP マルチネイバー サポートを有効にする前に、次の点を考慮してください。

- デバイスで LLDP をグローバルにイネーブルにしていることを確認します（グローバル設定コマンド **feature lldp**）。



注 LLDP をグローバルに有効にすると、LLDP は、デフォルトで、サポートされているすべてのインターフェイスで有効になります。

- 1 つのインターフェイスで最大 3 つのネイバーがサポートされます。
- LLDP マルチネイバーは、FEX インターフェイスではサポートされません。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **no lldp tlv-select dcbxp**
3. **[no] lldp multi-neighbor**
4. **interface port / slot**
5. (任意) **[no] lldp transmit**
6. (任意) **[no] lldp receive**
7. (任意) **show lldp interfacel port / slot**
8. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	必須: no lldp tlv-select dcbxp 例： switch(config)# no lldp tlv-select dcbxp switch(config)#	DCBXP TLV をグローバルに無効にします。 (注) LLDP マルチネイバー サポートが設定された後にエラーメッセージが表示されないようにするには、このコマンドを入力する必要があります。
ステップ 3	必須: [no] lldp multi-neighbor 例： switch(config)# lldp multi-neighbor switch(config)#	すべてのインターフェイスの LLDP マルチネイバー サポートをグローバルに有効または無効にします。
ステップ 4	interface port / slot 例： switch(config)# interface 1/1 switch(config-if)#	LLDP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	(任意) [no] lldp transmit 例： switch(config-if)# lldp transmit	インターフェイスでの LLDP パケットの送信をディセーブル (またはイネーブル) にします。 (注) このインターフェイスでの LLDP パケットの送信は、グローバル feature lldp コマンドを使用してイネーブルにされました。このオプションは、この特定のインターフェイスの機能を無効にします。
ステップ 6	(任意) [no] lldp receive 例： switch(config-if)# lldp receive	インターフェイスでの LLDP パケットの受信をディセーブル (またはイネーブル) にします。 (注) このインターフェイスでの LLDP パケットの受信は、グローバル feature lldp コマンドを使用してイネーブルになりました。このオプションは、この特定のインターフェイスの機能を無効にします。
ステップ 7	(任意) show lldp interface port / slot 例： switch(config-if)# show lldp interface 1/1	インターフェイス上で LLDP の設定を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行設定を、スタートアップ設定にコピーします。

ポートチャネルインターフェイスでの LLDP サポートの有効化または無効化

始める前に

ポートチャネルで LLDP サポートを有効にする前に、次の点を考慮してください。

- デバイスで LLDP をグローバルにイネーブルにしていることを確認します（グローバル設定コマンド **feature lldp**）。



注 LLDP をグローバルに有効にすると、LLDP は、デフォルトで、サポートされているすべてのインターフェイスで有効になります。

- ポートチャネルに **lldp transmit** および **lldp receive** コンフィギュレーションコマンドを適用しても、ポートチャネルのメンバーの設定には影響しません。
- LLDP ネイバーは、LLDP 送受信がポートチャネルの両側で設定されている場合にのみ、ポートチャネル間で形成されます。
- LLDP の送受信コマンドは、MCT、VPC、FEX ファブリック、FEX ポートチャネル、およびポートチャネルサブインターフェイスでは機能しません。



注 LLDP ポートチャネル機能をグローバルに有効にすると、LLDP 設定はこれらのポートタイプのいずれにも適用されません。ポートチャネルから設定が削除された場合、またはポートタイプ機能がグローバルに無効になった場合は、**lldp port-channel** コマンドを使用して新しくサポートされたポートチャネルで有効にすることはできません。コマンドはすでに発行されています。問題のポートチャネルで LLDP ポートチャネルを有効にするには、**lldp transmit** および **lldp receive** を各ポートチャネルに対して設定します（次の手順のステップ 4、5、および 6 を参照）。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **no lldp tlv-select dcbxp**
3. **[no] lldp port-channel**
4. **interface port-channel** [*port-channel-number* | *port-channel-range*]
5. (任意) **[no] lldp transmit**
6. (任意) **[no] lldp receive**
7. (任意) **show lldp interface port-channel***port-channel-number*
8. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	必須: no lldp tlv-select dcbxp 例： switch(config)# no lldp tlv-select dcbxp switch(config)#	DCBXP TLV をグローバルに無効にします。ポートチャネルで LLDP を設定する前に、このコマンドを入力する必要があります。
ステップ 3	必須: [no] lldp port-channel 例： switch(config)# lldp port-channel switch(config)#	すべてのポートチャネルの LLDP 送受信をグローバルに有効または無効にします。
ステップ 4	interface port-channel [<i>port-channel-number</i> <i>port-channel-range</i>] 例： switch(config)# interface port-channel 3 switch(config-if)# 例： 複数のポートチャネルで LLDP を設定する場合は、ポートチャネル番号の範囲を入力します。 switch(config)# interface port-channel 1-3 switch(config-if-range)#	LLDP を有効にするインターフェイスポートチャネルを指定し、インターフェイス設定モードを開始します。 LLDP を有効にするインターフェイスポートチャネル範囲を指定し、インターフェイス範囲設定モードを開始します。
ステップ 5	(任意) [no] lldp transmit 例： switch(config-if)# lldp transmit	ポートチャネルまたはポートチャネルの範囲で LLDP パケットの送信を無効（または有効）にします。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) このポートチャネルでの LLDP パケットの送信は、ステップ 3 の lldp port-channel コマンドを使用して有効になりました。このオプションは、この特定のポートチャネルの機能を無効にします。
ステップ 6	(任意) [no] lldp receive 例： <code>switch(config-if)# lldp receive</code>	ポートチャネルまたはポートチャネルの範囲での LLDP パケットの受信を無効（または有効）にします。 (注) このポートチャネルでの LLDP パケットの受信は、ステップ 3 の lldp port-channel コマンドを使用して有効になりました。このオプションは、この特定のポートチャネルの機能を無効にします。
ステップ 7	(任意) show lldp interface port-channel port-channel-number 例： <code>switch(config-if)# show lldp interface port-channel 3</code>	ポートチャネル上の LLDP 設定を表示します。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config 例： <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	実行設定を、スタートアップ設定にコピーします。

LLDP の MIB

MIB	リンク
LLDP-MIB	ftp://ftp.cisco.com/pub/mibs/supportlists/nexus3000/Nexus3000MIBSupportList.html